

はじめに

近年の原油価格の高騰による燃油、生産資材の価格上昇は、施設園芸の盛んな東海地域においても農家の経営を厳しくしています。そのようななかでも、発展する東アジアの富裕層をターゲットに品質のよい東海地域の果実、花き、茶などを輸出しようとする産地の努力も見られます。

また、全国的に消費者の不安・不信を招くような食品の偽装や不適正表示が相次いで摘発されていますが、東海地域も例外ではなく、全国的に有名な菓子業者などで事案が発生しました。

本報告書は、このような東海地域の食料・農業・農村をめぐる情勢を平成19年度を中心にとりまとめたものです。

冒頭では、トピックスとして燃料等資材価格の高騰、食品の不適正表示事件、農林水産物輸出等平成19年度の東海地域の特徴的な動きを採り上げています。

「特別課題編」では、昨今、食の乱れによる肥満や生活習慣病の増加、作物や家畜に触れる機会の減少による食と農との断絶がいわれる中、子どもの頃から生命の源である食やそれを支える農について体験を通して学び、食べ物の大切さや地域の農業に対する理解を深める「農業体験学習」をテーマに取り上げ、東海地域の取組の現状、取組の課題をとりまとめるとともに、本取組に関わる人々へのメッセージを記載しました。

「一般動向編」では、東海地域の食料・農業・農村の動向や東海農政局の取組等について、平成19年度を中心に事例、統計データ等を用いてわかりやすい記述を心がけました。

本報告書が東海地域をはじめ広く多くの方々に活用され、東海地域の食料・農業・農村について関心を持ち、理解を深めていただく一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本報告書の作成に当たり、資料の収集、調査等で多大なご協力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

平成21年 3月

東海農政局長 竹森 三治

